

南半球便り（その9）：パース訪問

3月30日

3月22日から26日まで、西オーストラリア（WA）州のパースを訪問してきました。豪州着任後、同州への最初の公式訪問で、個人的にも初めてのパース訪問を楽しみにしていました。地中海性気候の青空と陽光が限りなく眩しく、街中にふんだんに見られる緑と水のコントラストが実に鮮烈な、誠に美しい街でした。豪州のみならず世界で最も暮らしやすい街と言われる理由が、実感できました。

（1）絶妙のタイミングと厚遇

コロナ禍に伴う州境封鎖でWAへの訪問が長らく困難であった中、今回の私の訪問は、キャンベラに駐在する外国大使の先頭を切って、ほぼ一年ぶりにWAを訪問する機会となりました。実際、その旨、ゼンピラス・パース市長やダウストWA上院議長からも指摘され、温かく歓迎されました。要所で記帳をするたび、直前の記帳が一年前の日付であったことが印象的でした。



マッガーワン WA 首相



ゼンピラス・パース市長

また、キャンベラの知人からの口添えもあり、ビーズリーWA総督（元労働党党首、駐米大使）からは、由緒ある公邸で素晴らしい昼食のおもてなしを受けました。現下の国際・地域情勢について、非常に率直な意見交換をすることができました。



ビーズリーWA 総督主催昼食会にて

旧知のコート前駐日大使（元 WA 州首相）夫妻からは、有名な地元大富豪の個人美術コレクションを鑑賞しながら豪州の歴史についての講釈をうかがい、夕食を共にしつつ森羅万象について議論することができました。忘れられない一夜になりました。



コート前駐日大使主催夕食会（写真右端がコート前駐日大使）

（2）現下の問題についての意見交換

ビーズリー総督、マッガーワン州首相、ダウスト上院議長、ゼンピラス市長、大物財界人、学者、日本企業関係者、豪日協会関係者等と精力的に会談し、幅広く意見交換をしてきまし

た。中国との貿易への依存度が過剰に高く、殊に、ワイン、ロブスターといった WA 産品も貿易制限措置に晒されてきた経緯があるだけに、連邦政府の政策に対する反応が注目されました。

そもそも州経済にとっての大黒柱である鉄鉱石が貿易制限措置の対象となっていないとの展開、豪州の対応を支持するとの米政権高官発言、アラスカでの米中両政府間の激しいやりとりの直後であったこともあり、宥和的な発言を聞くことは殆どありませんでした。

(3) 日本の立場についての対外発信

今回の出張の主眼の一つは、同地のパース US アジアセンターというシンクタンクが毎年開催している「日本シンポジウム」に、旧知のゴードン・フレック同センター所長からキーノート・スピーカーとして招かれたためです。

ご案内のとおり、ビショップ元外相は、日本とのツー・プラス・ツーで大きな役割を果たしてこられた方です。歯に衣着せぬプレゼンの迫力はもちろんのこと、相変わらずの抜群のファッション・センスで、場が殊の外、華やぎました。

私は同元外相と相次いで登壇し、スピーチ【[原稿はこちらからご参照いただけます](#)】。その後、コート前大使やゴードン・フレック所長も加わって、4人でパネル・ディスカッション【[シンポジウムの模様はこちらからご覧いただけます](#)】が行われました。



日本シンポジウムの模様

豪州のインド洋への玄関口であるパースという土地柄、そして、日米豪印 (QUAD) の首脳会談直後であっただけに、話題の相当部分が QUAD に集中したのが印象的でした。聴衆からの最初の質問が、ネットでワシントンから参加していた旧知のグレン・フクシマ氏からであったことが、日豪米の密接なつながりを会場に感じさせることとなりました。

(4) 富の力

天然ガス事業に携わるウッドサイド社，鉄鉱石に携わるリオ・ティント社，BHP，FMG社など，豪州を代表するエネルギー，鉱山業の大企業関係者から，ブリーフを受ける一方，忌憚のない意見交換をしてきました。

豪州企業からは，鉄鉱石や天然ガスを中心とする伝統的な日豪間の補完的貿易関係を越えて，水素をはじめとする新たな分野を開拓していきたいとの強い関心が表明されました。

西豪州の鉄鉱石や天然ガスが日本経済を支えてきたことは，ご案内のとおりです。同時に，これらの資源がもたらした膨大な富の力は，パースの街並み，東京のオフィスビルに勝るとも劣らない大企業の瀟洒な本社ビル，個人事業家の美術コレクションを目の当たりにすれば，一目瞭然です。こうしたパースのビジネス街で，400億米ドル規模の壮大なイクシス LNG プロジェクトの運営を担う INPEX 社の看板を目にし，大変誇らしく思いました。



高層ビル群の中に INPEX 社の看板が

気候変動問題への対応，なかんずく 2050 年までの炭素排出ゼロの実現が迫られる中，時代を超えて事業を展開しようと模索する豪州企業のバイタリティーと，日本企業の世界に誇る技術力，資金力等とを組み合わせながら，日豪間の経済関係をより緊密なものにしていけるのではないかと，希望に満ちた「未来予想図」が描けることを期待しています。

限りなく美しい街パース。

何度でも再訪しようと思いつつ，キャンベラへの帰途に着きました。

山上信吾